

コロナ禍における入所事例と問題点について

施設名:介護老人保健施設「あけみおの里」地域連携室

発表者:諸見里 俊

【はじめに】

当施設の地域連携室には、施設介護支援専門員、支援相談員が配置されており、日々入退所の調整をしながら色々なケースをみてきた。

また、コロナ禍、真っ只中で、コロナ感染に対する入院治療後、自宅での生活が困難な為、ご家族や居宅介護支援事業所からの入所依頼がみられるようになった。

令和4年4月から、当施設に入所となった事例の中で、コロナ感染治療後の入所者の病態と予後についての検討を試みた。

【調査期間】

令和4年4月1日～9月30日

【対象】

新規25名中、コロナ感染後入所者4名

【事例】

事例1：90代（女性）

食思低下、嚥下機能低下、頻回の喀痰吸引

事例2：60代（男性）

認知機能の極端な低下

事例3：60代（男性）

ADLの著名な低下

事例4：70代（男性）

入所当日、車椅子からの転落

4事例の特徴は食思の低下を含めた極端なADLの低下にあり、看取り支援の体制へ移行

する事例もみられた。

コロナ感染関連の介護・リハビリによる全身状態の改善を希望とした入所希望者は、増加の傾向にある。本人がコロナ感染者でもある事もあれば、ご家族が感染したために施設利用者を隔離、保護するための入所依頼もある。急性期医療を担う機関との機能分担の上からも、可能な限り受け入れる姿勢で臨んでいる。

【感染取り組み状況】

自宅からの入所については、原則としてPCR検査陰性、または抗原抗体検査陰性を確認の後に、健康観察部屋において、健康観察部屋に3日間隔離していく方針をとっている。

当施設は100床を有し、長期入所に95床短期入所に5床を用意している。入所者の平均年齢は約90歳（100歳以上の事例が約1割）経管栄養（胃ろう・経鼻）事例が約20例、常時酸素使用事例が15例、年間看取り事例が20～30例と入所者の重症化が進行している。

入所者の重症化の進行の中で、感染症は尿路呼吸器感染が大半を占めているが、コロナ感染により悲惨な結果が予測されるため慎重な対策行っている状況である

【まとめ】

施設運営、経営上の病床管理も大切な課題ですがコロナ禍での施設利用者の健康管理とご家族の期待に応える意味においても全職種をもって、この危機を乗り越えるための病床管理に試行錯誤を重ねていきたい。